

# 元総社蒼海遺跡群(139)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020.3

前橋市教育委員会







# 元總社蒼海遺跡群(139)

前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0 . 3

前橋市教育委員会



## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、國府、國分僧寺、國分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（139）は上野国府推定地域付近の調査であり、上野国分尼寺跡のすぐ南に位置することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の確認はかないませんでしたが、古代の道路状遺構等が検出されました。古代の道は、国府期の土地利用について知る手掛かりとなります。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和2年3月

前橋市教育委員会  
教育長 塩崎政江

## 例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（139）の埋蔵文化財発掘報告書である。

2 発掘調査および整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（139）（前橋市遺跡コード：1 A 250）
遺跡所在地	群馬県前橋市元総社町 1734、1736・2、1736・3、1736・4、1736・5
監理指導	並木史一（前橋市教育委員会）
調査担当	前田和昭（技研コンサル株式会社）
調査員	茂木佑輔（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和元年 12月 10日～12月 24日
整理事業期間	令和元年 12月 25日～令和2年 3月 27日
調査面積	313 m <sup>2</sup>
発掘調査参加者	芦川良紀 新井 實 上沢公一 宇賀神光 宇貴美代子 岡 真 笠原たく江 北爪二郎 後藤次雄 小林 和 佐藤文江 塩野谷和夫 清水隆二 関根信子 杉田友香 高橋一巳 高見壽美子 中嶋知恵子 西湯 登 ニツ橋正雄 星野正也 真下かほる 水野さかゑ 森田恵子
整理作業参加者	大川明子（技研コンサル株式会社） 安藤三枝子 川野京子 木暮朱実 杉田友香 立川千恵子 田所順子 平澤小夜子 細野竹美

3 本書の編集は前田が行い、原稿執筆は I を並木史一（前橋市教育委員会）、他を茂木が担当した。

4 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

5 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

## 凡　　例

1 挿図中に使用した北は座標北である。

2 插図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、竪穴住居跡：H、道路跡：A、溝跡：W、土坑：D、ピット：P である。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 竪穴住居跡・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60 全体図・・・1/200

遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4、1/6

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構 焼土範囲：■ 灰範囲：■ 遺物 須恵器（還元焰）：■ 施釉：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 駿石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：5世紀末～6世紀初頭）、As-C（浅間 C 駿石：3世紀後葉～4世紀前半）

## 目 次

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の方針と経過	5
IV 基本層序	5
V 遺構と遺物	
1 穴住居跡	5
2 道路状遺構	7
3 溝跡	7
4 土坑	8
VI 発掘調査の成果と課題	8

## 挿図目次

Fig. 1 周辺調査地点とグリッド設定図	Fig. 6 H - 4・5号住居跡、粘土探査坑	10
Fig. 2 道路の位置	1 Fig. 7 A - 1号道路状遺構、W - 1号溝	11
Fig. 3 周辺遺跡図	3 Fig. 8 D - 1・2号土坑	12
Fig. 4 基本層序、調査区全体図	6 Fig. 9 出土遺物	12
Fig. 5 H - 1・2・3号住居跡	9	

## 表目次

Tab. 1 周辺道路一覧表	2	Tab. 3 出土遺物観察表	8
Tab. 2 土坑・ピット計測表	8		

## 写真図版目次

PL. 1 道路の位置（2011年撮影 上が北） 道路周辺の田畠（米軍撮影USA-R1250-108 上が北）	PL. 4 H - 5号住居跡全景（北から） A - 1号道路状遺構全景（南から） W - 1号溝全景（北から） D - 1号土坑全景（西から） D - 2号土坑全景（南から） 粘土探査坑全景（南から） 粘土探査坑全景（北から） 基本土層A（南から） 基本土層B（北から）
PL. 2 調査区全景	
PL. 3 H - 1号住居跡全景（西から） H - 1号住居跡カマド全景（西から） H - 2号住居跡全景（西から） H - 2号住居跡断面A - A'（南から） H - 1・3号住居跡全景（西から） H - 1・3号住居跡全景（北から） H - 4号住居跡全景（北から）	

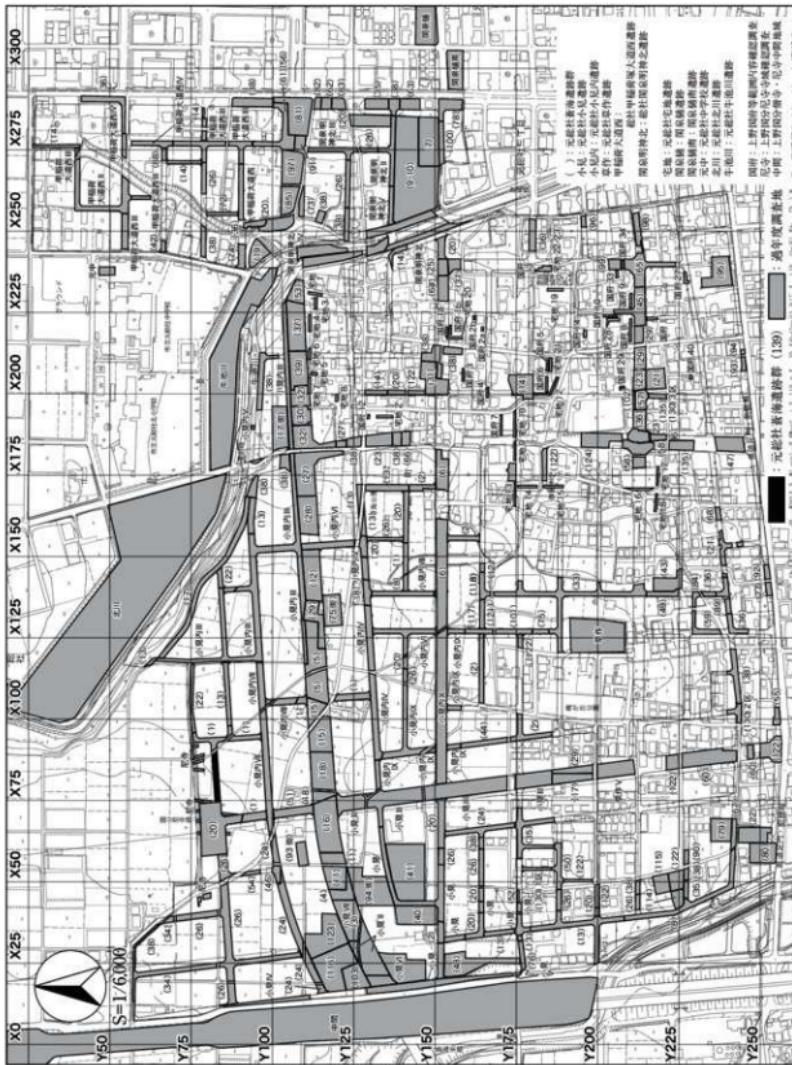


Fig. 1 周辺調査地点とグリッド設定図

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、21年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年9月11日付で前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年11月8日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

令和元年11月22日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年12月6日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（139）」（遺跡コード：1A250）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「（139）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

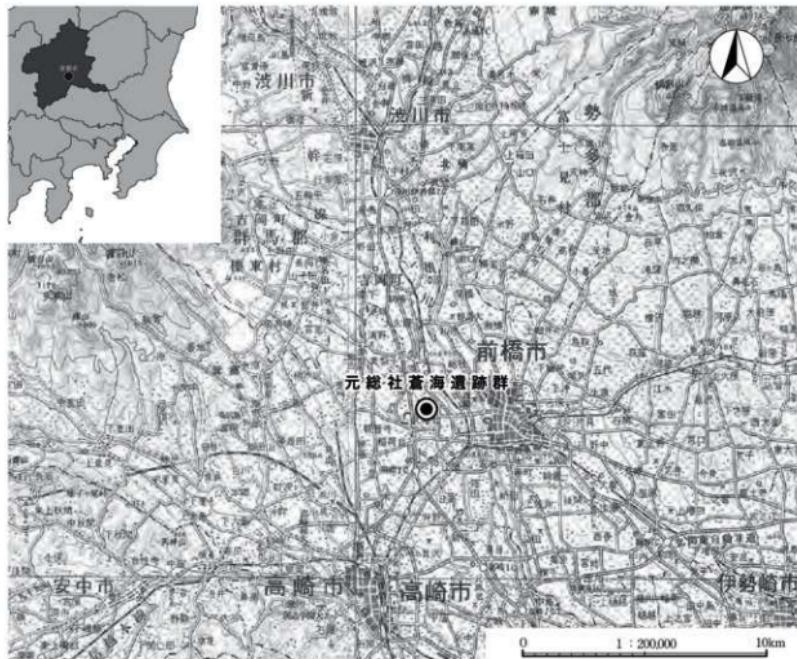


Fig. 2. 遺跡の位置

## II 遺跡の位置と環境

**遺跡の位置** (Fig. 1) 元総社蒼海遺跡群 (139) は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、主要地方道前橋・安中・富岡線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

本遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は 3 ~ 5m を測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

**歴史的環境** (Fig. 3 · Tab. 1) 本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連続し遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

(1) 繩文時代 八幡川右岸の微高地に上野国分寺跡 [15] ・産業道路東 [16] 、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地城 [22] ・元総社小見Ⅲ遺跡 [59] ・元総社蒼海遺跡群 (24) などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

(2) 弥生時代 日高遺跡 [18] [19] ・上野国分僧寺尼寺中間地城 [22] ・正觀寺遺跡 [21] などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間 C 軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

(3) 古墳時代 本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして總社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、壬王古墳 [7] ・總社二子山古墳 [12] ・愛宕山古墳 [10] ・宝塔山古墳 [13] ・蛇穴山古墳 [8] などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王庵寺 [4] が建立され、總社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王庵寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ~ 56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」範書の平瓦出土により山王

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	元総社蒼海遺跡群 (139)	16	産業道路西遺跡	31	寺田遺跡	46	大屋敷遺跡 I ~ VI
2	上野国分寺跡	17	中尾遺跡	32	天神遺跡、Ⅱ遺跡	47	元総社細堀遺跡
3	上野国分尼寺跡	18	日高遺跡	33	坂敷遺跡、Ⅱ遺跡	48	五反田Ⅱ遺跡
4	山王庵寺跡	19	日高遺跡	34	押越遺跡	49	上野国分寺道遺跡
5	東山道 (推定)	20	角羽遺跡	35	大友坂敷、Ⅱ・Ⅲ遺跡	50	大友宅地遺跡
6	日高道 (推定)	21	正觀寺遺跡 I ~ IV	36	鶴只遺跡	51	總社開闢明神北遺跡、Ⅱ遺跡
7	壬王古墳	22	上野国分僧寺・尼寺中間地城	37	村前遺跡	52	稲田川西遺跡
8	蛇穴山古墳	23	北原遺跡	38	五反田遺跡	53	元総社西川遺跡
9	總荷山古墳	24	元総社明神道遺跡 I ~ X	39	熊野谷遺跡、Ⅱ、Ⅲ遺跡	54	元総社小見I遺跡
10	愛宕山古墳	25	閔泉橋遺跡	40	村東遺跡	55	元総社宅地遺跡 I ~ 23 トレンチ
11	遠見山古墳	26	柿木遺跡、Ⅱ遺跡	41	高梁寺廻向遺跡、Ⅱ遺跡	56	元総社小見内遺跡
12	總社二子山古墳	27	草作遺跡	42	堅越Ⅱ遺跡	57	總社甲福荷坂大道西遺跡、Ⅱ遺跡
13	宝塔山古墳	28	閔泉橋南遺跡	43	元総社寺道遺跡 I ~ III	58	元総社小見内Ⅱ遺跡
14	元総社小学校校庭遺跡	29	塚田村東遺跡	44	弥勒遺跡、Ⅱ遺跡	59	元総社小見内Ⅲ遺跡
15	産業道路東遺跡	30	後泥間遺跡 I ~ III	45	因分塙遺跡、Ⅱ、Ⅲ遺跡	60	元総社小見内IV ~ VI遺跡

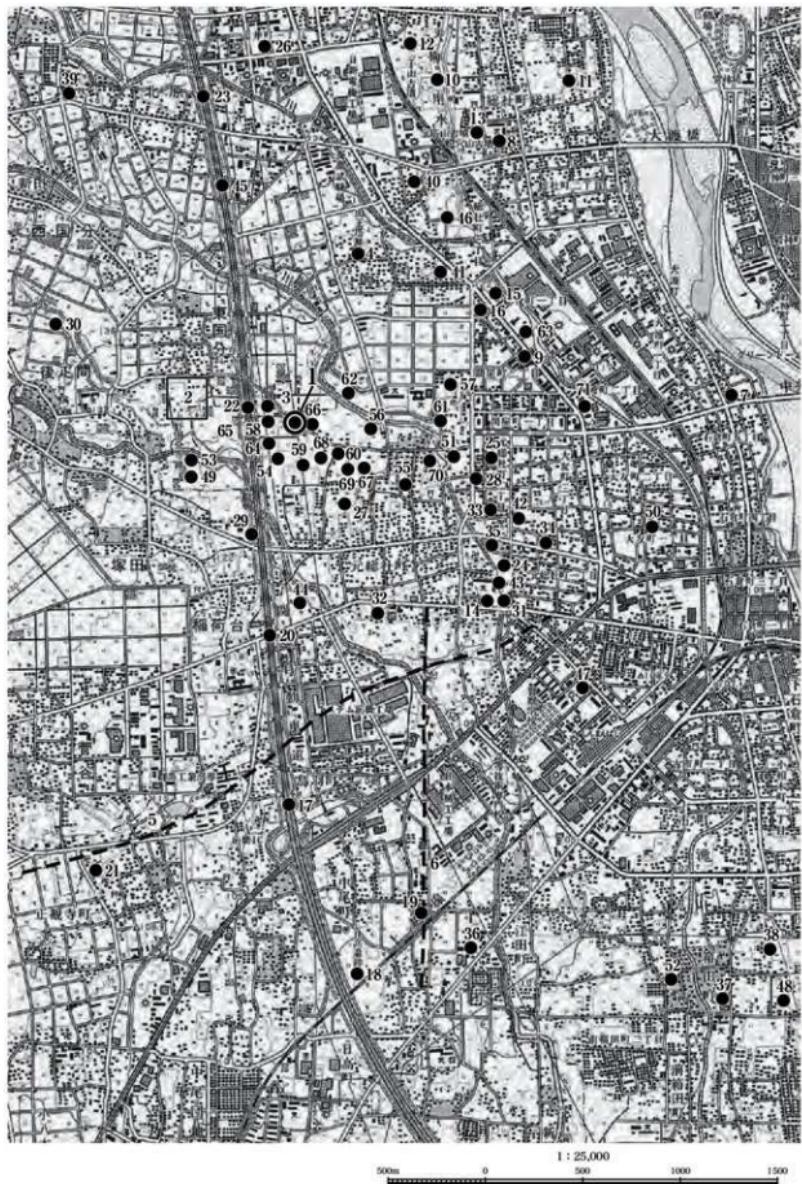


Fig. 3 周辺遺跡図

廢寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成9～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北IV・V遺跡などで水田跡が確認されている。

(4) 奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲内容確認調査28・33・34トレントンでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡〔43〕では「國府」・「曹司」・「國」・「邑厨」などの墨書き器や人形が出土している。元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉橋遺跡〔25〕や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府城の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面鏡や綠釉陶器、巡方（腰袋具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分寺跡は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成24年度から28年度にかけての第2期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和44・45年のトレントン調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査團により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡〔20〕で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊にはN・64°・E方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で8世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では9世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では8世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が1基、元総社稻葉遺跡〔47〕では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が2基確認されている。

(5) 中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会蓋壺・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は源氏・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長6年（1601年）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となつた。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡〔71〕の貨幣埋納遺構から572枚におよぶ銭貨が撲綱を通した「綱」の状態で六綱出土している。

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内であり、調査面積は313m<sup>2</sup>である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000、Y = - 72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系 測地成果 2011）
(139) X 80、Y 84	X = 43,664.000 m、Y = - 71,880.000 m	X = 44,018.904 m、Y = - 72,171.753 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45m<sup>3</sup>バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNa遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはドローンでの撮影を実施した。整理作業における出土遺物の計測は、キーエンス社製3Dスキャナー（VL-300）による機械計測を主体とした。

#### 2 調査経過

元総社蒼海遺跡群（139）の発掘調査は、現況の雑木林を伐採するところから開始した。伐採は令和元年12月11日から13日まで行い、その後産業廃棄物として処理するために搬出した。0.45m<sup>3</sup>バックホーを使用した表土掘削は12月12日から13日まで行った。表土掘削に並行して遺構確認作業を行い、12月13日から遺構調査を開始した。古墳時代後期から平安時代を中心とした時期の遺構調査を行い、12月20日にドローンによる全景撮影を行った。同日中に記録・測量作業、住居跡掘り方などの確認調査を実施した。12月23日から0.45m<sup>3</sup>バックホーと振動ローラーを使用した調査区の埋め戻しと並行して撤収作業を行い、12月24日に現地での発掘調査を終了した。令和元年12月25日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

### IV 基本層序

今回の調査地点は、相馬ヶ原層状地が前橋台地に隣接する端部に立地し、牛池川の右岸に位置する。現況では南東方向に緩やかに傾斜する地形となっているが、調査区の東西端で記録した基本層序によると、平夷化される以前の地形は、調査区中央付近を境として東側に向かって下る形状となっている。これは牛池川の影響を受けたものであり、残存する総社砂層の高低差は約1mとなっている。西側は表土直下が総社砂層であることから、旧状はより傾斜が強い地形であったと推察される。

### V 遺構と遺物

#### 1 竪穴住居跡

##### H-1号住居跡 (Fig. 5・9, PL. 3)

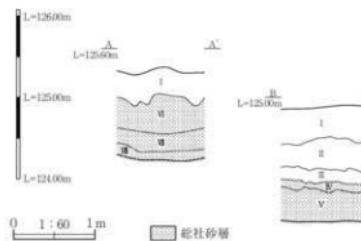
位置 X 86・87、Y 82・83 主軸方向 N - 101° - E 規模 東西軸 2.69 m、南北軸 (3.28) m、壁現高 0.14 m。調査区東側から検出された。遺構確認面は東に向かって下がる緩斜面地となっている。トレンチによって南壁およびカマド南半は削平されている。面積 5.36 m<sup>2</sup> 床面 カマド焚口付近から中央にかけてはよく硬化し

ているが、壁付近の硬化は弱い。重複 H-3と重複し、新旧関係はH-3→本遺構である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長0.81m、燃焼部幅(0.26)m、袖の残存長は左(北)が0.41m、煙道は壁外に0.42m突出している。検出深が浅いために天井部の崩落および灰層の流出状況は判然としない。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色粘質土ブロック、As-C軽石粒を少量含んだ黒褐色土が部分的に貼付された地山硬化床。出土遺物 床面直上から須恵器高台付塊(1)、須恵器高台付皿(3)、カマドから須恵器高台付塊(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から、9世紀後半と想定される。

#### H-2号住居跡 (Fig. 5, PL. 3)

位置 X 84・85, Y 82 主軸方向 N = 86° - E

規模 東西軸3.53m、南北軸(1.28)m、壁現高0.51m。調査区中央東寄りの北壁から検出した。住居中央から北半にかけては調査区外となる。面積 2.43m<sup>2</sup> 床面 カマド焚口付近を含む全域でよく硬化している。重複 無し。カマド 東壁南側に1基検出。確認長(1.00)m、燃焼部幅(0.34)m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.44m、煙道は壁外に(0.46)m突出している。火床面および燃焼部側壁から奥壁にかけては、よく被熱を受けたために硬質な焼土層となっている。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出され



- 基本層序 A・B  
 I Ⅰ: 黒褐色土 (10YR3/1) 肩まりや少有、粘性や少有、黄土層。  
 II Ⅱ: 黑褐色土 (10YR2/2) 肩まりや少有、粘性や少有、As-C軽石粒を微量含む、黒褐色地の發達土層。  
 III Ⅲ: 黑褐色土 (10YR2/2) 肩まり少有、粘性や少有、粗面褐色粘質土ブロックを少量含む、黒褐色地の發達土層。  
 IV Ⅳ: 黑褐色土 (10YR4/2) 肩まり少有、粘性や少有、粗面褐色粘質土を主体として、粗面なAs-C軽石粒ブロックを微量含む。(粗粒砂層の特徴性)  
 V Ⅴ: 黑褐色土 (10YR4/2) 肩まり少有、粘性や少有、粘質土を主体として、粗面な黃褐色土ブロックを微量含む。(粗粒砂層の特徴性)  
 VI Ⅵ: 黑褐色土 (10YR4/2) 肩まり少有、粘性や少有、粗粒砂層。土塊が西手の走査線沿面。  
 VII Ⅶ: 黄褐色土 (10YR4/2) 肩まり少有、粘性弱、粗粒砂層。黄褐色粘土を微量含む。  
 VIII Ⅷ: 黄褐色土 (10YR4/2) 肩まり少有、粘性弱、粗粒砂層。

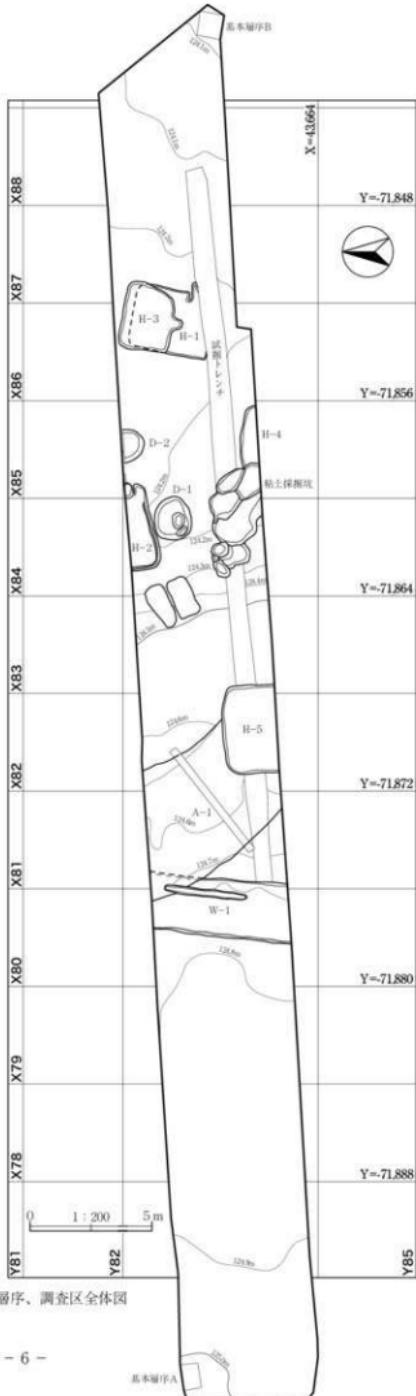


Fig. 4 基本層序、調査区全体図

す。 挖り方 As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土が薄く貼付された地山硬化床。 出土遺物 カマド掘り方から土師器壺 1 点が出土した。 時期 出土遺物が小破片であるため、時期は判然としない。

#### H-3号住居跡 (Fig. 5・9, PL. 3)

位置 X 86・87, Y 81・82 主軸方向 N - 170° - E 規模 東西軸 281 m、南北軸 2.11 m、壁現高 0.24 m。調査区東側から検出した。面積 3.77 m<sup>2</sup> 床面 全体的によく硬化している。重複 H-1 と重複し、新旧関係は本遺構→H-1 である。カマド 南壁中央に 1 基検出。確認長 0.62 m、燃焼部幅 0.62 m、煙道は壁外に 0.40 m 突出している。平面形状としてはカマドに近いが、他に構築の痕跡がなく、火床面や崩落土中に焼土層と灰層がまったく認められないことから、カマドとしての機能には疑問が残る。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 挖り方 黒色粘質土の地山層をベースとして、As-C 軽石を微量含む黒褐色土を部分的に貼付された地山硬化床。出土遺物 床面直上から土師器壺 (1) が出土している。時期 出土遺物の傾向から 8 世紀前半と想定される。

#### H-4号住居跡 (Fig. 6・9, PL. 3)

位置 X 85、Y 83 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸 257 m、南北軸 0.78 m、壁現高 0.37 m。調査区中央東寄りの牛池川に向かって傾斜がより強くなる地点からの検出であり、カマドおよび住居南半は調査区外となる。面積 1.07 m<sup>2</sup> 床面 全体的によく硬化している。重複 粘土探掘坑と重複し、新旧関係は本遺構→粘土探掘坑である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 挖り方 粘性が強い地山層をベースとして、凹凸面に砂粒ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 須恵器高台付壺 (1)、須恵器高台付皿 (2)、皿面にヘラ文字「吉」が刻まれた平瓦 (3) が出土している。3 点共に住居覆土中からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

#### H-5号住居跡 (Fig. 6・9, PL. 3)

位置 X 82・83、Y 83 主軸方向 N - 87° - E 規模 東西軸 3.63 m、南北軸 2.23 m、壁現高 0.40 m。調査区中央南側での検出であり、カマドおよび住居南半は調査区外となる。面積 5.39 m<sup>2</sup> 床面 全体的に硬化している。重複 A-1 と重複し、新旧関係は A-1 → 本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 挖り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 住居北西壁際より、平安時代末期に特徴的な酸化焰焼成の「かわらけ状の壺」須恵器小皿 (1) が出土した。時期 出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

## 2 道路状遺構

#### A-1号道路状遺構 (Fig. 7, PL. 4)

位置 X 80～82, Y 82・83 主軸方向 N - 36° - W 規模 長さ (6.51) m、上幅 (5.07) m、深さ (0.25) m、調査区中央からの検出で南北両側は調査区外となる。本遺跡の南側に位置する元総社小見内Ⅶ遺跡では同一と考えられる遺構は検出されていない。溝の可能性も考慮されるが、幅が広く硬化面を持つことから、道路状遺構とした。形状等 両端は緩やかな弧状で、底面との区分は不明瞭であった。底面は凹凸があり、粘質土ブロックを充填しや硬化している。重複 H-5, W-1 と重複し、新旧関係は W-1 → 本遺構→H-5 である。出土遺物 須恵器壺、瓦が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。時期 重複関係と出土遺物から、11 世紀前半以前と想定される。

## 3 溝跡

#### W-1号溝跡 (Fig. 7, PL. 4)

位置 X 80・81、Y 82・83 主軸方向 N - 6° - E 規模 長さ (5.70) m、上幅 2.48 m、下幅 2.26 m、深さ 0.29

m、調査区中央西寄りからの検出で南北両側は調査区外となる。本遺跡の南側に位置する元経社小見内Ⅶ遺跡では同一と考えられる遺構は検出されていない。覆土から通水の痕跡は認めらない。形状等 断面は浅い逆台形状で、底面はやや起伏がある。重複 H-5、A-1と重複し、新旧関係は本遺構→A-1→H-5となる。

出土遺物 須恵器瓶類・塊・瓦片が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。時期 重複関係と出土遺物から、国分尼寺荒廃以降と考えられる。

#### 4 土坑 (Fig. 6・8、PL. 4)

土坑2基および粘土探査坑を確認している。各土坑の計測値については「Tab. 2 土坑・ピット計測表」を参照のこと。

### VI 発掘調査の成果と課題

本遺跡は国分尼寺の南側に位置しており、周辺の調査事例としては、平成12年度の国分尼寺寺域確認調査において想定された、寺域南限を区画する道路状遺構がある。一方で、元経社蒼海遺跡群(20)では道路状遺構の存在は否定され、調査区北東部から瓦敷遺構が検出されている。今回の調査では関連する遺構の検出が期待されていたが、結果として堅穴住居跡5軒、道路状遺構1条、溝1条、粘土探査坑、土坑2基の検出に留まった。特に調査区西側は、過去の調査地点と比べて強く削平されて、低く平坦化されていたことも遺構が認められなかつた要因となっている。住居跡は9世紀後半以降を主体としている。国分尼寺の南面空間として広域に捉えた場合、尼寺の存続と瓦敷遺構、集落の前後関係が気になるところだが、調査事例のみではまだ判断できる状況ではない。今後の蒼海遺跡群の調査と、近年高崎市によって行われている尼寺調査によって判明することを期待したい。

Tab. 2 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D-1	X 84・85、Y 82	(1.77)	(1.52)	0.43	不整円形	台形状	土師器壺1、瓦1	
D-2	X 85、Y 82	(0.84)	(1.37)	0.63	—	弧状		
粘土探査坑	X 84・85、Y 82・83	—	—	—	—	—	須恵器壺21・施8、土師器壺5、瓦	7基の不定形な掘り込み

Tab. 3 出土遺物観察表

#### H-1

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	No. 2・6	須恵器	高台付	148	68	60	白色土。—	堅穴	灰	外側クロロゾ、内部に黒赤あり且、高さ60cm。	2基残存。
2	No. 8・9・10 P-1付近	須恵器	施	120	62	38	白・灰色地。	堅穴	灰黄、灰黄	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり、薄手部。	1基残存。
3	No. 3	須恵器	高台付	(1.37)	85	(1.5)	白・灰・灰黑色	堅穴	灰白	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり且、高さ60cm。	1基一先端(高台付)剥落。

#### H-3

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	No. 2	土師器	施	(1.27)	85	(1.1)	白・灰地。	堅穴	灰	外側に細かなカッコ、底面に赤茶色あり且、内側クロロゾ。	1基半分剥片。

#### H-4

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	須恵器	高台付	148	65	57	白・灰・灰黑色	堅穴	灰白	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり且、高さ60cm。	2基残存。
2	覆土	須恵器	高台付	(1.04)	68	29	白・灰地。	堅穴	灰白	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり且、高さ60cm。	1基残存。
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
3	覆土	灰	平底	41.1	27.8	22	—	—	—	内側黒茶、外側灰白。	下土無限。

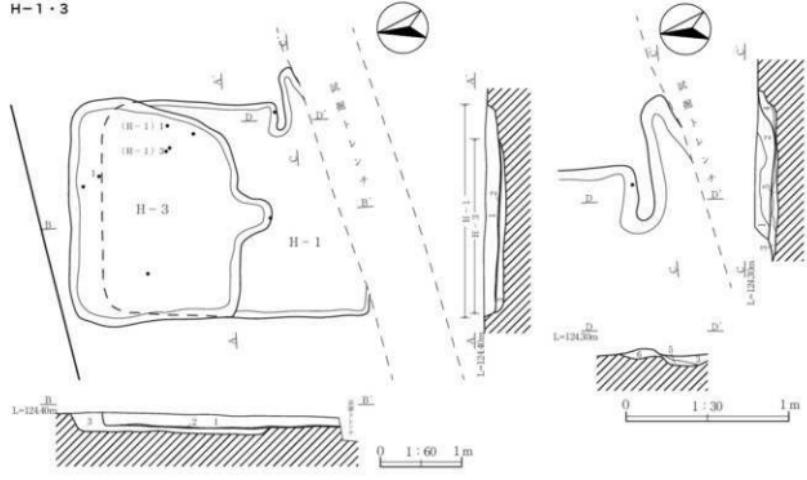
#### H-5

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	No. 1	須恵器	施	(0.81)	(0.61)	18	(1)・堅丸形、 (2)・球形。	堅穴	灰	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり且、内側クロロゾ。	2基残存。

#### 遺構外

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	出土土	地盤	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	表面	須恵器	高台付	(1.36)	68	47	白・灰地。	堅穴	灰白	外側クロロゾ、底面に赤茶色あり且、内側クロロゾ。	2基残存。

H-1・3



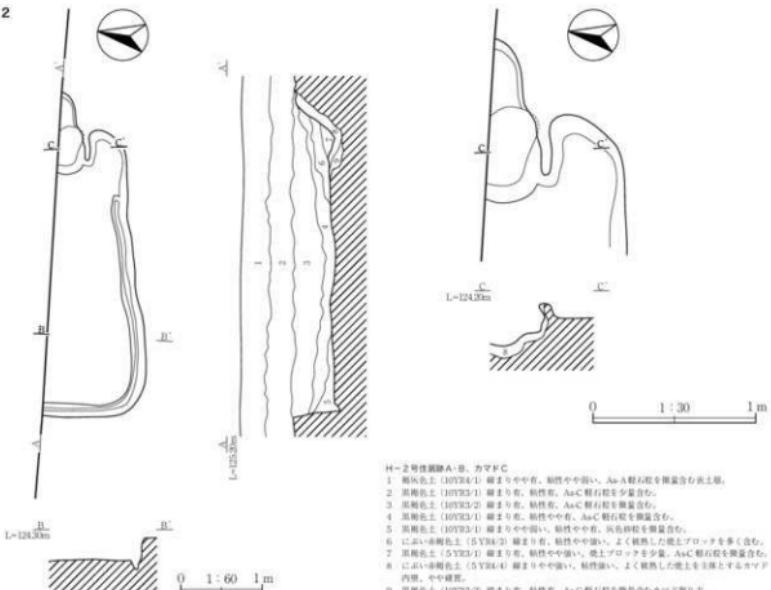
H-1・3号住居跡A・B

- 黒褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性少や弱い。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 灰黃褐色土 (H0Y3A-2) 線まりや少弱い。粘性少や弱い。燒成したカマド灰岩層。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黑褐色土 (H0Y3C-1) 線まりやや強い。粘性強い。H-1 に付接する砂質層。やや硬質。
- 灰黃褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性少や弱い。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黑褐色土 (H0Y3C-1) 線まり有。粘性有。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黑褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性有。内壁側がやや焼成により焼成したカマド灰岩層。Aa-C 軽石粒を微量含む。

H-1・3号住居跡C・D

- 黒褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性少や弱い。Aa-C 軽石粒を微量含む。

H-2

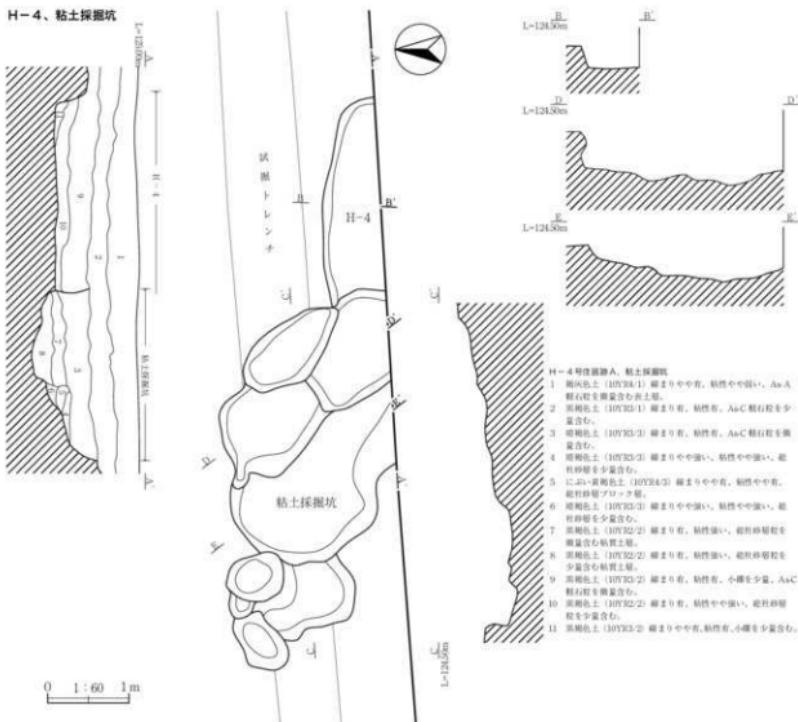


H-2号住居跡A・B、カマドC

- 黒褐色土 (H0Y3A-1) 線まりやや有。粘性少や弱い。Aa-C 軽石粒を微量含む表土層。
- 黒褐色土 (H0Y3A-1) 線まりや有。粘性少や弱い。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黒褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性有。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黒褐色土 (H0Y3C-2) 線まり有。粘性有。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- 黒褐色土 (H0Y3C-1) 線まりやや弱い。粘性少や弱い。灰化状況を微量含む。
- じぶん系樹木土 (5Y3D-2) 線まり有。粘性少や弱い。よく焼成した土塊を多く含む。
- 黒褐色土 (5Y3D-2) 線まり有。粘性少や弱い。燒成ブロックを少量。Aa-C 軽石粒を微量含む。
- じぶん系樹木土 (5Y3D-4) 線まりやや弱い。粘性少や弱い。よく焼成した土塊を主とするカマド内壁。やや硬質。
- 黒褐色土 (H0Y3C-1) 線まり有。粘性有。Aa-C 軽石粒を微量含むカマド側面。

Fig 5 H-1・2・3号住居跡

H-4、粘土探掘坑



H-5

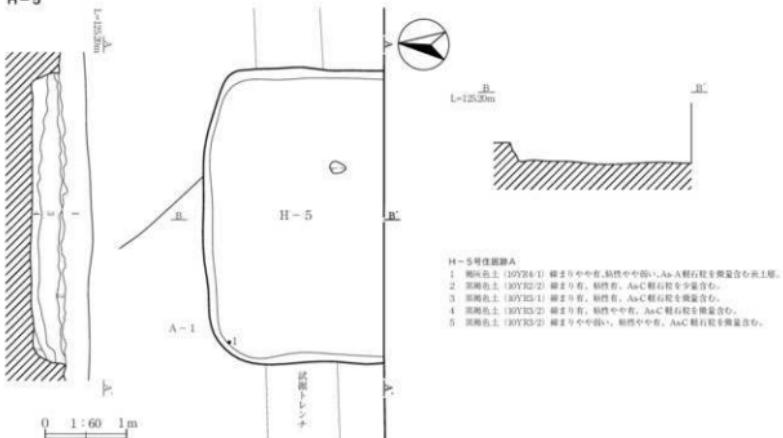


Fig. 6 H-4・5号住居跡、粘土探掘坑

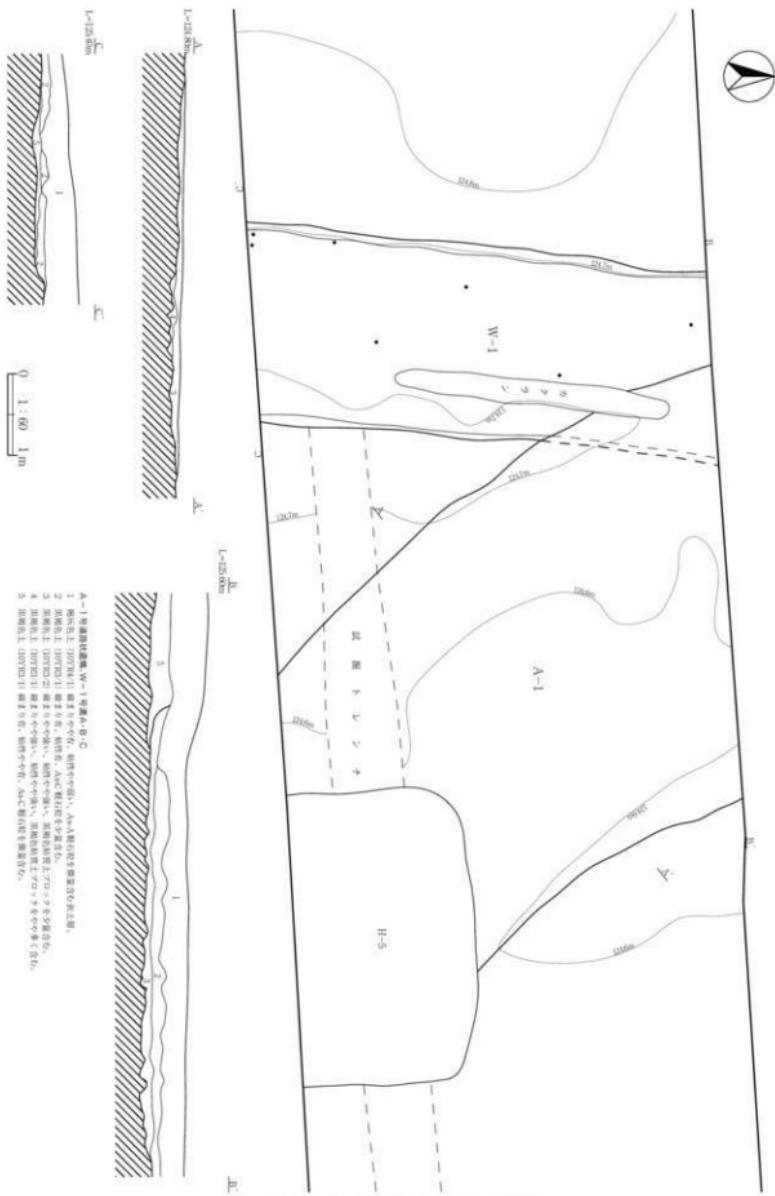


Fig. 7 A-1号道路状遺構、W-1号溝

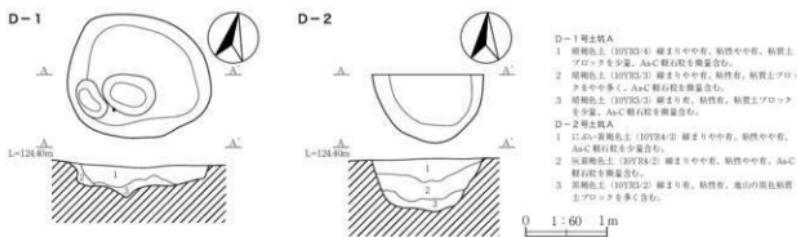
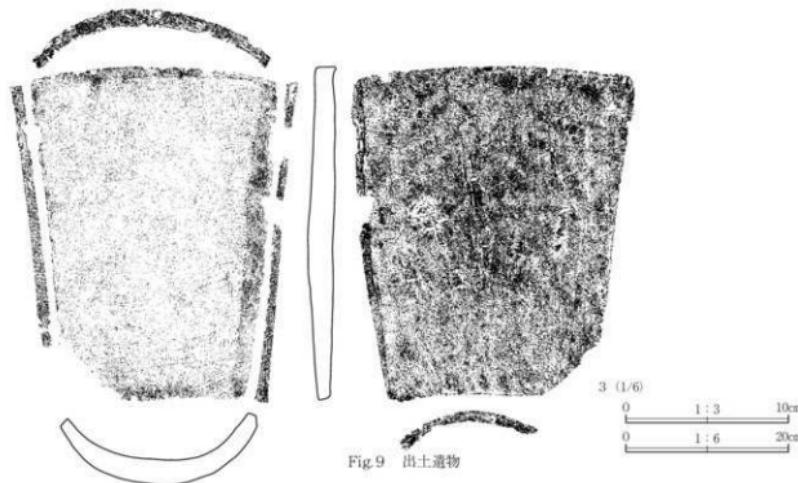
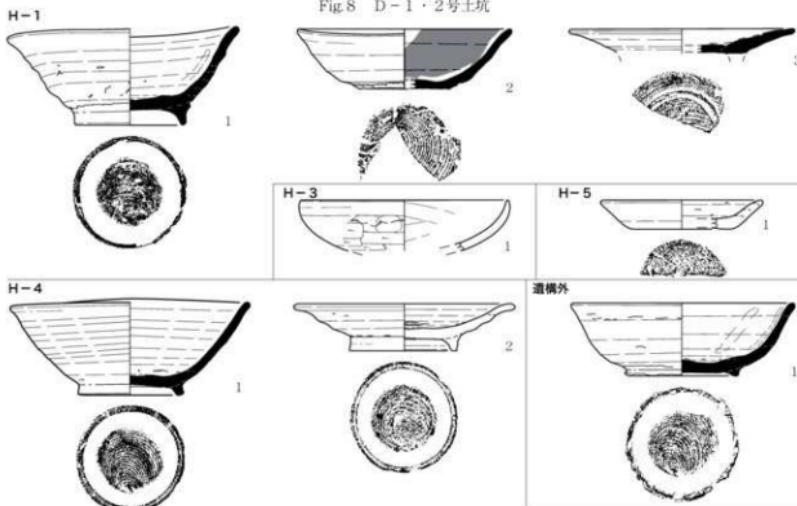
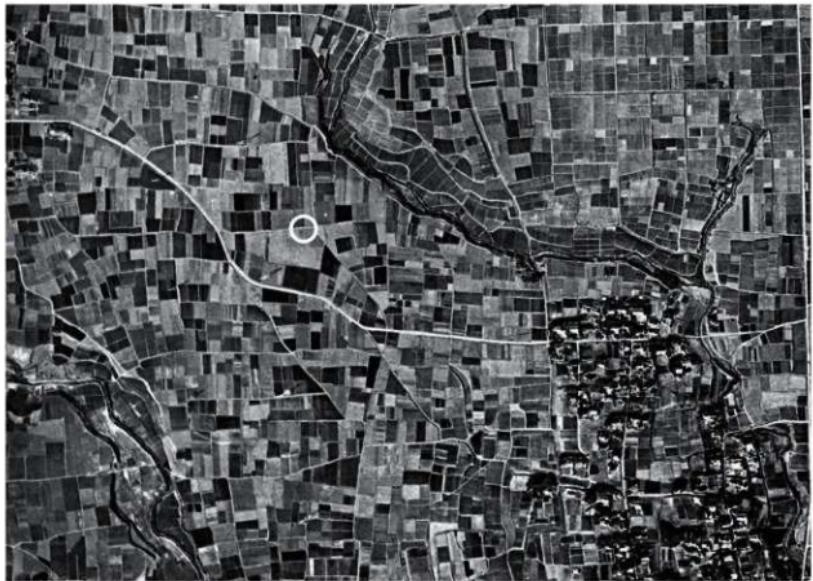


Fig. 8 D-1・2号土坑

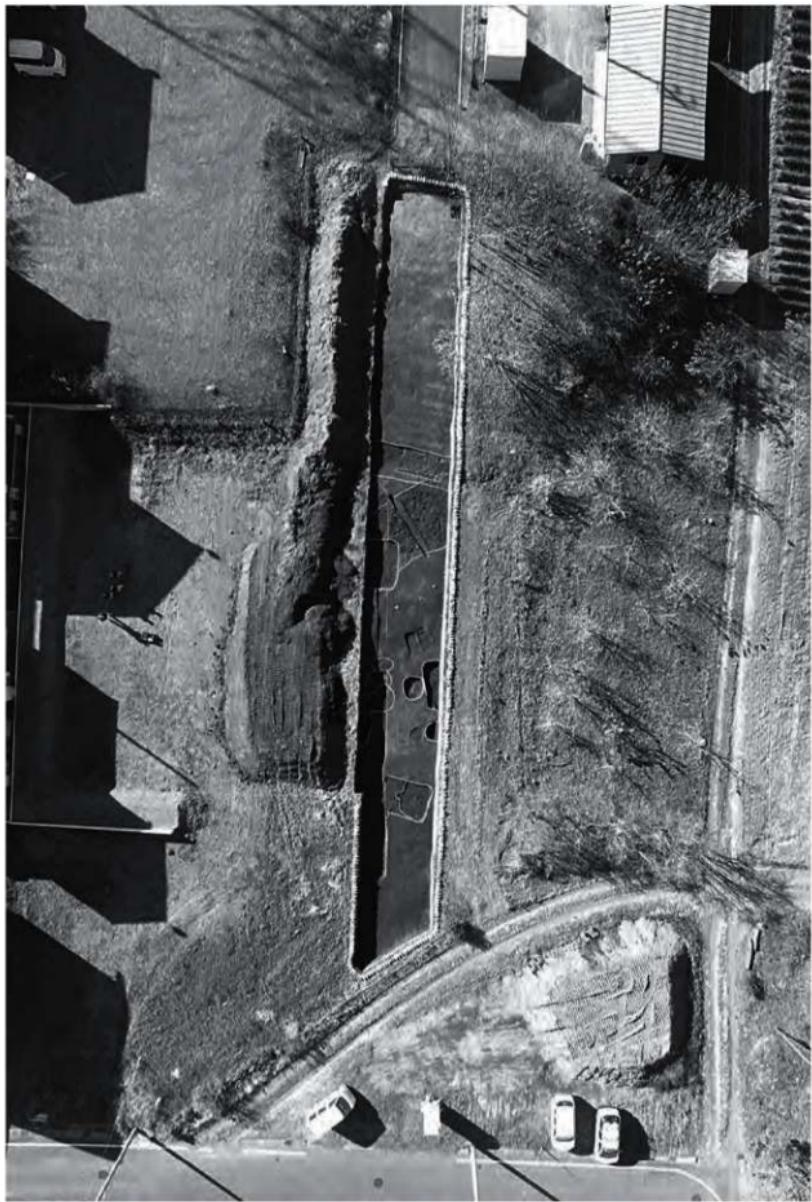




遺跡の位置 (2011年撮影 上が北)



遺跡周辺の現状 (米軍撮影USA-R1250-108 上が北)



調査区全景（上が西）



H-1号住居跡全景（西から）



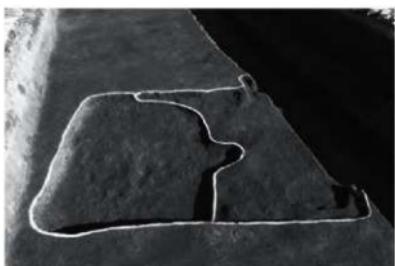
H-1号住居跡カマド全景（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡断面A-A'（南から）



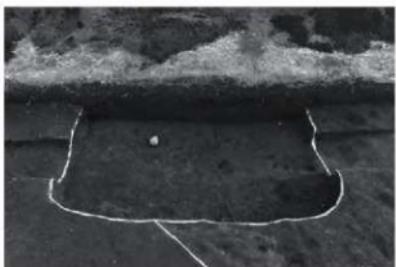
H-1・3号住居跡全景（西から）



H-1・3号住居跡全景（北から）



H-4号住居跡全景（北から）



H-5号住居跡全景（北から）



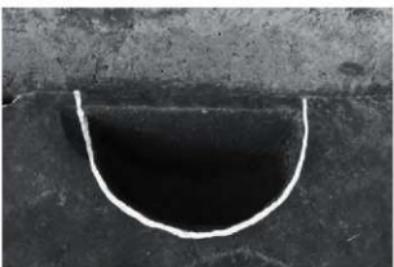
A - 1号道路状造構全景（南から）



W - 1号溝全景（北から）



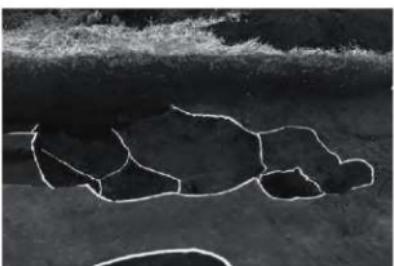
D - 1号土坑全景（西から）



D - 2号溝全景（南から）



粘土探掘坑全景（南から）



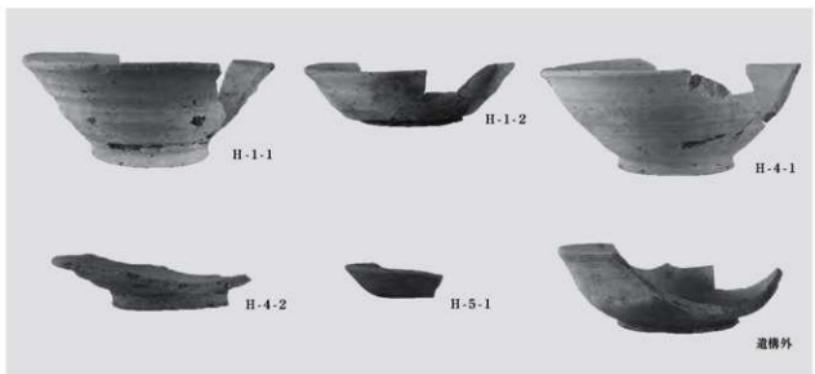
粘土探掘坑全景（北から）



基本土層A（南から）



基本土層B（北から）





## 報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン (139)
書名	元総社蒼海遺跡群 (139)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	茂木佑輔
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2020年3月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群 (139)	前橋市元総社町 1734、1736-2、 1736-3、1736-4、 1736-5	10201	1A250	36°23'27"	139°1'54"	2019.12.10 - 2019.12.24	313m <sup>2</sup>	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (139)	集落 その他	奈良時代 平安時代	住居跡 道路状遺構 溝 粘土探掘坑 土坑	5軒 1条 1条 1基 2基	須恵器、土師器

---

---

## 元総社蒼海遺跡群（139）

群馬県前橋市元総社蒼海遺跡区画整理事業における歴史文化財発掘調査報告書

---

2020年3月16日 印刷

2020年3月27日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課  
〒371-0853 群馬県前橋市能社町3丁目11番地4  
TEL 027-280-6511

編集  
印刷

技研コンサル株式会社  
朝日印刷工業株式会社

---







